



# AA日本ニューズレター

NPO法人AA日本ゼネラルサービス(JSO)

No.164

## ■ 常任理事会より

### A類常任理事を退任するにあたって

前A類常任理事 藤岡淳子

昨年(平成25年)末で、4年間務めさせていただいたA類常任理事を退任させていただきました。在任中のみなさまのご厚情に感謝いたします。「矯正保護の分野にもAAのメッセージをより広く届けられるようになるお手伝いをする」ことを役目と考えて活動してきました。あまりお役に立てた感じはないのですが、みなさんの活動自体は、徐々に実を結び始めている感があり、その着実な努力と活動に改めて敬意を表します。幸い、荒木福岡保護観察所長さんという、これ以上はないというくらいの後任を得て、今後もこの方針の実現に力を合わせていくことができるだろうと安心しております。

常任理事会や評議会では、皆さんが喧々諤々(けんけんがくがく)と論議を交わす様子に、これこそが民主主義の第一歩という感動と、しかし「民主主義はけっこう大変だ」という思いとが交錯したことを思い出します。B類常任理事の不信任の可決という「大事件」がありました。その後、その方は病気で逝かれ、「時間がない」としばしば口にされていたのは、任期のことではなく、命の限りのことだったのだろうか、だとすれば私たちももう少し別のやり方でサポートできたのではないかなどと心残りがあります。

ニュー・ヨークで開催されたワールド・サービス・ミーティングに参加する機会をいただき、その報告のために北海道や東北、中部北陸、関西のメンバーのみなさんと交流できたこともよい思い出です。みなさんありがとうございました。

AAの運営は、非効率的に見えるところもないではありませんが、実際はこれでいいんだなど考えるに至りました。新しいメンバーを包摂(ほうせつ)し、輪番制で役割を果たし、一人一人の意向に注意を払って話し合ってゆっくり進んでいく、それがAAの良さであると思います。12ステップには、「回復への道のり」が記されています。縁あって、AAに関わらせていただいたおかげで、困難を抱えた人々がどのようにして回復していくのか、そしてそのグループの中ではどのようなことが生じているのか、少しだけ見えてきたような気がしています。

丁度、「アルコール対策基本法」が成立し、これまでのような「依存」に限定することなく、矯正保護領域での飲酒問題にアプローチできる可能性が広がる可能性があります。今後は、AAで学んだ飲酒問題とそこからの回復に関わる理解を「通訳」として、まだAAを知らない人々にお伝えしていくことも私の仕事の一つと考えています。

最後に、「退任したの？ジェジェ  
ジェ。退任するなら、今でしょ！

知恵と経験の、倍返し。

あ・り・が・と・う、ありがとう。」



### B類常任理事を退任するにあたって

B類常任理事 糟谷

2014年3月末日をもって常任理事の任期満了を迎えます。安堵の思いとなにかしらの寂しさを感じています。今からちょうど4年前の第15回AA日本評議会において、全体サービス常任理事の立候補者が不在のため、特例として通常、関東甲信越地域からの募集を全国枠に拡大し立候補者を募ることが勧告されました。

当時の常任理事に声を掛けて頂き「本当に立候補者がいないならしつこくですが立候補します。」という運びとなりました。その後同じ中部北陸地域からもう1名立候補者が出られ郵送選挙となりました。相手の立候補者は同じ地域でとてもお世話になっていて、サービスにも精通しており常任理事として申し分の無い方でしたので、簡単に決まるなと思っていました。しかし1回目2日目の郵送投票でも決まらず3回目は“帽子”によるくじ引き。なんと〇と書かれた札を引き当ててしまいました。

2010年9月からの常任理事会出席から役割がスタートしました。JSOにも来たこともなく、戸惑いながら担当は“財務”。右も左もわからない常任理事会の世界。議事内容も進行もあれよあれよと流れていき、勢いだけで進んだ案件もあったと思います。

財務担当として月次年次の報告を監督するわけですが、当初毎月の数値の整合性がとれない報告をし、グループの皆様へご迷惑をお掛けしていたことをお詫び申し上げたいと思っています。予算案の策定も現状把握のままならぬ状況で真つ当な予算計画もできるはずもなく、各理事からの要望予算の丸投げ状態で無謀な収入予算を提出し、結果はおもいきりの大赤字2011年評議会は血みどろになったような気がしました。現事務局長の村田さんの力添えのお陰で徐々に透明感ある会計となってきました。

このように実務能力のない私でも、JSOスタッフ・評議員をはじめとするAAメンバーのご支援と力添えをいただき、暖かく見守って頂き任期満了を迎えることが出来、心より感謝申し上げます。

4月からは最も協力して頂いたホームグループに対してお礼を兼ねて、グループの小さな役割を担わせて頂きたいと思っております。

### B類常任理事 服部

それは突然の一本の電話から始まったのです。内容は理事の辞任に伴う立候補のお誘いで、仲間は熱心に話していましたが当人はキョトンとしていたのを覚えています。私とは無縁と思っていた世界が広がっていく瞬間でした。

理事となりましてからは財務・JSO 理事を経て、矯正では関東地域矯正委員会での刑務所等との渉外担当の経験から矯正関連施設メッセージを全国展開したいと、全国活動状況を把握する所から始め、矯正小委員会の開催。法務省矯正局や保護局への訪問も実現できました。

後半の2年は常任理事会議長に就任、担当も広報に変わり、厚生労働省への訪問を重ねたのちに『依存症対策に関する検討会』に招聘され参加。思えばただの料理屋のオヤジだった私が霞が関の会議の末席に座っている。人生不思議なものです。

また東北地域でのラジオ放送の実施などは全国展開への足がかりになってくれれば幸いです。今月から福岡県弁護士会が自助グループの活動を理解しようとAAを招いて、3回のアルコール依存症研修会を企画してくれました。今後は弁護士会さんへの広報活動などは大変重要な分野になるかと思えます。

時に熱い批判を頂戴した時もありましたが、足掛け5年になる理事活動、述べ8回の評議会参加も終了しました。評議会は挙手で意思表示をするのですが、以前、私の肩の病気から手が上がらないのを見た仲間が、即席で厚紙を手の形に切りとった挙手棒を用意してくれました。その挙手棒もいつしか二代目となり、今年も痛みと戦うことなく議論に集中できました。心細かな気遣いもしてくれるのもまわりの素敵な仲間達でした。

理事会主催の催しでは、共にアイデアと行動力を惜しみなく提供してくださった全国の仲間の皆様方。本当にお疲れさまでございました。

また歴代所長や職員さんたちにも支えていただきまして、心から感謝を申し上げます。お陰さまでした。

### B類常任理事 前田

その時、私は九州・沖縄地域セントラルオフィスの暫定職員をやっけて居りました。どうするか迷った挙句、スポンサーや評議員時代にお世話になった方々に相談をしました。その結果、立候補をする決心をしました。

2月の評議会で選出していただき、4月の常任理事会に出席したところ、推薦人2人のうちの1人が推薦資格者に該当せず、私の選出は無効とされました。出だしから波乱万丈で落ち込みました。

もう諦めてしまおうと言う思いを強く持ちましたが、スポンサーや仲間たちに短気を起こすなと止めてもらいました。

以前、スポンサーに言われたことがあります。「役割が輪番制になっている理由の1つは、役割が自分を成長させてくれる道具であるから。いつまでもそれを1人の人間が独占するのではなく、次の仲間へ渡していくのだ」と。

この4年間、理事をやらせていただき、たしかに自分は成長させて

いただいたように思います。4月の出だしでは自分が間違っていたのに人を責めていました。今思えば本当に恥ずかし限りです。

理事の仕事、いろいろさせていただきました。いろいろな仲間へ協力していただきました。特に『ホームグループ』(A5サイズ 150頁 630円)の出版では、多くの仲間の協力でやっと出来上がりました。本当に感謝しております。

JSO所長の交代がうまくいかず、次々と変わった事もありました。そして現在、新しい所長を迎えるには財政困難な状況で、現行の3人体制となりました。財務、会計担当の村田さんが事務局長をやって下さることになり、新井さんがグループ、評議会担当、田崎さんが出版、国際担当と、スキルのある良い人材が揃って本当に良かったと思っています。この3人なら大丈夫だと思っています。

来年は40周年です。良い集会となることを祈って退任の挨拶いたします。

### WSM評議員を退任するにあたって

#### WSM評議員 新村

今年の3月末を以って、4年任期のWSM評議員の役割を終えることになりました。同時に、AAメンバーになって足かけ29年間の多様なAAのサービス活動の役割も取りあえず幕が引かれたともいえます。その間自分に与えられたソブラエティ(回復)と伝統に基づいた一体性とサービス活動を体験させていただいた有意義な日々であったと今はハイパーパワーとAA共同体に感謝の念で一杯です。

ことにこの4年間についてはアルコールリズムからの回復の喜び、生かされている事の喜び、サービスをすることの喜び、を世界の仲間と心から分かち合えたこと、それはAAの36の原理の効果の再確認と確証でもありました。そして言葉と文面では言い尽くせないスピリチュアリティな体験でもあったし、まさに金銭では買えない貴重な賜物を得たと云えます。

4年間でWSM(メキシコとニューヨーク)とAOSM(インドとロシア)に計4回参加して、およそ46ヶ国、130人の各国の評議員と出会い、36の原理(12のステップと伝統と概念、一回復・一体性・サービス)のバランスのとれたすばらしい体験の分かち合いを経験させてもらいました。

AAのさまざまな集まりと同様にWSMやAOSMの集まりも伝統5のAA本来の目的はただ一つ“アルコールリズムにメッセージを運ぶことである”ことに尽きるのだと。この事を忘れてサービスのためのサービス活動にならないような意識的な配慮がもっと必要に思います。

またWSMではコーディネーターはGSOの所長を始め、国際担当以下の各部のスタッフと更にA類の常任理事たちの文字通りの奉仕を任されたしもべとしての謙虚さを備えた態度に接したことに大きな感動を覚えました。

日本のAAはもっと世界のAA共同体とのつながりを持つ必要を感じたし、スポンサー国もない、明確なスポンサー国もない問題を再考した方が良いとも思いました。

WSMでは東アジアからの参加は日本だけなので日本の評議員は貴重な存在です。いろいろ事情はあるでしょうが日本の評議員経験者は勇気をもって途切れることなくWSM評議員に立候補されるよう

に切にお願いする次第です。

これでサービス活動が卒業したとは思っていませんので、とくにWSMでの貴重な経験は今後も機会をつくって第一の目的を具体的に仲間たちとの“分かち合い”と“述べ伝え”を心掛けたいと考えています。いつでも声かけして頂ければ喜んでお役にたちたいと思っています。

## ■評議会より 第19回評議会を終えて

### 評議会担当常任理事 星

今年度の評議会は、2月8日(土)～10日(月)まで幕張セミナーハウスで開催されました。初日の朝、雪がかなりひどくなってきたし、天気予報もさらなる雪を予報していたので評議会出席者が全員遅れずに出席できるかどうかを危ぶんでいたのですが、全員そろって定刻に始めることができたのは何よりでした。それでも、その日帰る予定だったメンバーが帰ることができずにやむなくセミナーハウスに無理を言って泊めていただくなど、混乱があったのはどうしようもなかったことでしょう。

今年勧告された事項を見ていくと、やはり皆さんのゼネラル・サービスをどうにかしなければならぬ、という熱意を感じます。一昨年、昨年と同様の議題が出ていたのですが、やはりその進捗が目に見えなかったことを見るものにして欲しい、という気持ちがよく分かりました。議題にはなりませんでしたが、常任理事への立候補者が各選出枠が1名ずつのみだったこと、それにWSM評議員への立候補者がなかった(今後さらに立候補を求めていきますが)こと、など同じようにゼネラル・サービスに関わる問題は大きいと言わざるを得ないでしょう。また、三重地区を関西地域から中部北陸地域へ移管する、という議案は、あっさり決まったように思えるかもしれませんが、かなり慎重に審議していただいた結果だと感じております。

今年特に感じたことは、いろいろな情報をもっと伝えて欲しいという要望から出た議案が多かったということでした。ゼネラル・サービス構成を審議する委員会というものもう存在しますが、各グループに対してアンケートを採って欲しいというものなど、その一つだと言えるでしょう。常任理事会としては、合同会議の結果などを各グループにもお知らせして私どもの活動を知っていただけるよう心がけておりますが、今後さらにより情報をお知らせしていくことによって、皆様からの良心の声を聞けるものとしていける方向を目指してまいりたいと思っております。

## 分かち合いのテーマは「信頼」

### 第1分科会議長 宮坂

グループで回ってくる役割を訳も解らず続けていく中で、仲間から少しずつ“力”や“信じる気持ち”を頂き、地区、地域とサービス活動を続けてきました。そして昨年仲間に背中を押してもらい、評議員として立候補させて頂きました。『自分が回復したい』から始まったサービス活動でした。

「評議会ではたくさん発言してきなさい」と、先行く仲間に励まされ、評議会初日を迎えました。幕張セミナーハウスの大会議室に設営さ

れた評議会議場は、向かい合わせになった発言者用の演壇と議長席、議決権者席の脇をボランティアの事務局メンバーが囲み後ろにはオブザーバ席という構成で、議論に集中できるように各所に工夫がされ、独特の雰囲気醸成していました。

初日は、予算や活動計画等の報告が粛々と続き、2日目になって全国から集まった議題の議論が各分科会で始まりました。どの分科会も約10人の議決権者で話し合うのですが、常任理事の先行く仲間との議論に緊張し、初めは発言するのもやっとなりました。夕食後の全体会議では、一つ一つの議題を分科会での議論を基に、30人の議決権者全員で吟味し議決していきます。議題が進むにつれ場内はヒートアップし、「書籍にルビは必要か!」「暴力防止カードは…」と、評議会メンバー全員が“苦しんでいるアルコールク”の為に熱い思いを語り、いつの間にか自分も積極的に議論に参加していました。最終日の全体会議でも白熱した議論は続き、あっという間に時間が過ぎて行きました。熱気冷めやらぬ中ハンドリングで評議会が終わると、各所でハグや固い握手が交わされ仲間たちは全国各地へ帰って行きました。

評議会で頂いた感動を皆に伝えたいと思い、帰りにミーティングに行きました。そこには専門病院から大勢の仲間たちが参加していました。分かち合いのテーマは「信頼」。病院の仲間たちが、「早く退院して早く信頼を取り戻したい」と次々と発言していて、切実な苦しみ伝わってきました。次にグループのメンバーたちが自分の経験を話し始めました。思いやりに溢れた分かち合いに、苦しんでいるアルコールクにメッセージを運ぶ“AAの愛の手”が会場を包んでいるのがはっきりと感じられ、涙が止まらなくなりました。『自分の回復より、苦しんでいる仲間を助けたい』という思いが自分の中に沸き起こってきました。

評議会は、私にとって霊的な3日間となりました。2年間の評議員の活動を通して、“AAの愛の手”を運んでいきたいと思っています。

## ”AAプログラムのおかげ”である事を広く正しく伝えたい

### 第2分科会議長 中矢

私の飲酒の問題の解決には、精神病院の入院が必要でした。私を上手な酒飲みにして下さると思って入院したのに、“アルコール依存症は完治しない”と断言し、自助会を紹介して下さいしたのは、精神科の先生とワーカーさんでした。私の考えとは全く違う考えに対して、大きなショックを受けた事を今も鮮明に覚えています。

アルコール依存症者にAAと云う道を伝えて下さるのは、病院の先生やワーカーさん、保健所や矯正施設の職員の方々です。この方たちが大きな役割を担って下さっていると改めて気付かされた時、この方たちへの広報が必要なのだとの思いに至りました。そして、今日、私が飲まずに生きていられる、この”AAプログラムのおかげ”である事を広く正しく伝えたい(広報)と思うようになったのです。

昨年11月に関東甲信越地域集会で、私を前期評議員として沢山の仲間から信任をいただいた時には、身の引き締まる思いでした。そして、今年度の評議会、私は第2分科会(広報・病設・矯正)に出席しました。第2分科会を経て全体会議で審議された議題には、念願であった新しいAAポスター選定がありました。また、全国矯正

フォーラムが今年度は九州沖縄地域、来年度は中部北陸地域で開催されることが勧告になりました。また、今年1年間、AA全体サービスの共通テーマは『広めよう、報せよう、あなたの街にAAがあることを』となりました。

最後に、40周年記念集会の前年と当年に評議員として、第2分科会の議長として、AAに全体サービスの活動をさせていただける事、感謝です。私ができる事を誠実に行動させていただきますので、宜しくお願いします。

## ほんの少し、仲間を思いやる気持ちと想像力と

### 第3分科会議長 和泉

第19回評議会で、私は第3分科会に参加しました。討議された議題の中で話題にしたいこととして、ルビつきの書籍作成についてがあります。私自身はこの議題が、今苦しんでいる仲間へメッセージを運ぶための大切な気持ちについて考えるきっかけになるのではと思いました。

今までにも何度か議論されてきていることと思います。ルビ付きの書籍の議論の中で必ず出てくることとして、「ルビをふってあげることはその人の努力する機会を奪ってしまうのでよくない」という話で、必ずその裏には、自分たちはできたので他の人もできるはずだ、という努力すれば報われる的な考え方があるのではと感じています。すべてがそうとは言いませんが、一部にあるのではないのでしょうか。

さて、果たしてそうでしょうか。私たちのお酒が努力だけではやめられなかったのと同じで、個人の努力にすべてをきすことはできないでしょう。世の中は非常に不平等で、努力だけで乗り越えられないことがたくさんあります。たとえば知的に障がいのある方や、目の見えない方。たとえば耳の聞こえない人など。

そういった人たちの中のまだ苦しんでいるアルコールクに向けて、私たちが書籍を通じて接することができたAAの原理について、出会い学ぶ機会を提供することも、私たちの責任なのではないかと私は考えています。

もちろんすべての人の思いに応えるだけの力も財力も、今の日本のAAにはありません。あわせて、たくさんの経験ある仲間たちが、仲間同士で助け合い補い合って課題を乗り越えてきている現実も知っています。ただ、その少数の仲間を思う気持ちは大切であり、少しの想像力をもって、できることを考える必要があるのでは私たちは思いました。

今年の評議会を終えて、第3分科会では来年度に向けてディスカッションミーティングの議題を提案することとなりました。分科会に参加した評議員、理事のみなさんとメールで連絡をとりながら、「『12のステップと12の伝統』を読むことが困難で苦しんでいる仲間たちに向けて、手助けしてきた経験や思いを分かち合って欲しい。」という内容の議題を提案する方向で調整しています。

全国の仲間が、少なくとも何かしらの困難を抱えている仲間に対して、思いやりやそれ以外の対応で乗り越えてきた経験があるかと思っています。そういう経験を分かち合う場として評議会が活用され、まだ苦しむ仲間たちの回復の一助となれば幸いだと思っています。

## 何故評議会が必要なのか？

当時の常任理事会のチェアパーソンであり、評議会機構の立案者の一人でもあったノン・アルコールリックの故バーナード・スミス氏は、1954年の会合の開会の言葉の中で、この質問に見事な解答を出している。

『AA サービスマニュアル2001年～2002年版』P.42より

自分の回復を確かなものにしようとするとき、評議会は別に必要ないかもしれませんが。しかし、まだ暗闇のなかでつまづき、光を求めているアルコールリックの回復を確かにするためには、それが必要なのです。なぜかアルコールリックになる宿命を背負わされた新生児の回復を確かにするためには、それが必要なのです。十二番目のステップと同様に、来たるべき世代のすべてのアルコールリックに不滅の安らぎの場所を提供するために、そして彼らもまた、初期のメンバーを再生させた生まれかわりを見出すために、それが必要なのです。

私たちは、力や威信に対する人間の衝動が破滅をもたらすことに気づいており、それは決してAAに侵入してはならないものであるから、評議会が必要なのです。混乱と絶縁し、支配からAAを守るために、私たちにそれが必要なのです。統制を避け、共同体の分裂を防ぐために、それが必要なのです。アルコールリクス・アノニマスが、アルコールリクス・アノニマスだけが、みずからの十二ステップ、十二の伝統、そしてすべてのサービスを究極的にゆだねられる場であるために、それが必要なのです。

AAのなかで変更があるとすれば、それはAA全体から出た必要と希望に応えるときだけであり、少数の人たちの要求によるものではないことを保証するため、評議会が必要なのです。AAの会場の扉の鍵は開いており、アルコールリズムの問題をかかえたすべての人が、いつでも素顔のまま迎えられることを保証するために、それが必要なのです。アルコールリクス・アノニマスは助けを求めている人の人種、信条、社会的地位を問題にしないことを保証する一助として、それが必要なのです。

『アルコールリクス・アノニマス成年に達する』P.422より

AAはどのように始まり、成長し、世界中に広がっていったのか。回復・一体性・サービスという三つの原理はどのような経緯で生まれ、どんな方法で世界中にそのメッセージを広めていったのか、これらの歴史を知りたいと思うすべての人のために書かれている。



2,940円

編集・発行： NPO 法人 AA日本ゼネラルサービス (JSO)

〒171-0014 東京都豊島区池袋 4-17-10 土屋ビル 3F Tel:03-3590-5377 Fax:03-3590-5419

http://www.aajapan.org js0-11@fol.hi-ho.ne.jp

(月～金) 10:00～18:00 (土・日・祝) 休